



第 81 号(平成 29 年8月2日)

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ
特別隊員

島崎 三步 の「山岳通信」

この通信は次の方々に長野県の山岳地域で発生した遭難事例を原則的に 1 週間ごとにお伝えし、「安全登山」のための情報提供をしています。

- ◇お客様と接する登山用品店舗スタッフの方
- ◇インターネットの登山情報サイトを利用される登山者
- ◇長野県内の各地区山岳遭難防止対策協会

平成 29 年中の山岳遭難発生状況(平成 29 年1月1日～7月 23 日)

BC(バックカントリー)は、登山行為を伴う「スキー(スノーボード)登山」と登山行為を伴わない「ゲレンデ外滑走」の総称。

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)外国人
平成 29 年	140	28	4	75	53	160	20
平成 28 年	125	23	3	65	52	143	7
前年同期比	15	5	1	10	1	17	13
内)BC	22	1	1	9	16	27	10

山域別発生状況

区分	件数	件数比率	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	
北アルプス	槍穂高	21	15.0%	6		12	4	22
	後立山	35	25.0%	5	1	20	13	39
	その他	15	10.7%	2	2	7	4	15
	計	71	50.7%	13	3	39	21	76
中央アルプス	10	7.1%	3	1	6		10	
南アルプス	5	3.6%	1		3	1	5	
八ヶ岳連峰	14	10.0%	4		11	1	16	
その他の山岳	40	28.6%	7		16	30	53	
計	140		28	4	75	53	160	

日付	場所	年齢	性別	態様	死傷別	概要
7月18日	北アルプス 常念岳	61	女	転倒	負傷	常念岳から蝶ヶ岳へ縦走中、石につまづいて転倒し負傷。
18日、北アルプス常念岳から蝶ヶ岳へ至る尾根筋で、女性 A さん 61 歳が転倒により頭部裂傷等の怪我を負う山岳遭難が発生し、県警へリで救助しました。						
7月18日	南アルプス 易老岳	44	男	道迷い	無事救出	易老岳から下山中、尾根を間違えて道に迷い行動不能となったもの。
18日、南アルプス易老岳で、男性 A さん 44 歳が下山途中に道に迷い行動不能となる山岳遭難が発生し、19日、県警へリで救助しました。						
易老岳道迷い遭難現場付近の状況						
						
7月19日	戸隠連峰 高妻山	50	男	転倒	負傷	高妻山から下山中足を滑らせ転倒し、負傷。
19日、高妻山で、男性 A さん 50 歳が、左足骨折等の重傷を負う山岳遭難が発生し、県警へリで救助しました。						
7月20日	北アルプス 白馬岳	58	女	発病	無事救出	白馬大雪渓を白馬岳に向けて登山中、体調不良により行動不能となったもの。
20日、北アルプス白馬岳で、女性 A さん 58 歳が登山中に体調不良となる山岳遭難が発生し、県警へリで救助しました。						
7月21日	北アルプス 南岳	75	女	発病	死亡	南岳小屋から槍ヶ岳に向けて登山中、何らかの疾患を発症したもの。
21日、北アルプス南岳で、女性 A さん 75 歳が登山中に倒れて意識不明となる山岳遭難が発生し、県警へリで救助しましたが、その後死亡が確認されました。						
7月21日	北アルプス 大黒岳	69	男	滑落	負傷	唐松山荘から五竜岳へ縦走中、スリップにより約 200m 滑落し、負傷。

21日、北アルプス大黒岳で、男性Aさん69歳が登山中に滑落して腰部等骨折の重傷を負う山岳遭難が発生し、県警ヘリで救助しました。



大黒岳滑落遭難現場付近の状況

7月22日	北アルプス 燕岳	72	男	発病	無事 救出	山小屋に宿泊中、体調不良により 行動不能となったもの。
-------	-------------	----	---	----	----------	--------------------------------

21日、北アルプス燕岳の山小屋に宿泊中の男性Aさん72歳が体調不良を訴え行動不能となる山岳遭難が発生し、22日、県警ヘリで救助しました。

7月23日	北アルプス 涸沢	74	女	転倒	負傷	奥穂高岳から涸沢に向けて下山 中、転倒し、負傷。
7月23日	北アルプス 白馬岳	69	男	転倒	負傷	大雪渓を下山中、雪上でスリップし 転倒し、負傷。

23日、北アルプス白馬岳白馬大雪渓付近で、男性Aさん69歳が単独下山中に転倒して軽傷を負う山岳遭難が発生し、県警救助隊等が救助しました。

山岳安全対策課からのワンポイントアドバイス

21日に唐松岳と五竜岳の間で発生した滑落遭難は、本来の縦走路を間違えたために不安定な岩場に迷い込んだことにより発生したものでした。このような岩稜帯における「ルート外し」は、岩そのものが安定しておらず、浮石等が堆積している斜面に迷い込むため、滑落や転倒のリスクが高く致命的です。岩稜帯の通過は、岩の形状等をよく見極めて安定したルート進むようにしてください。また、事前に講習会等で基礎的なクライミング技術を身に付けておくとい良いでしょう。

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

* 本通信に関する質問・意見は「長野県観光部山岳高原観光課」mt-tourism@pref.nagano.lg.jp までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝